

「みんなで支える命」

福岡市立和白中学校

古賀 瑞輝

私の祖母は慢性腎不全という腎臓の病気を患っていた。私が生まれるずっと前からさうだから、私の記憶にある祖母は食後にはいつもゼリーのような薬を飲んでいたり、血圧を測ったりしていた。祖母は病気が発覚してから十年間、食事には特に気を遣っていたそうだが、それでも病気は良くなり、シャントを腕につくり、血液透析を行った。血液透析は一ヶ月で約四十万円といわれているほど費用がかかる。実際に、祖母が毎週通院しているところを見てきたけれど、当時五歳だった私は費用のことなんて考えたこともなかった。そして、私が中学生になって母にそのことを尋ねたとき、祖母の透析の医療費は重度心身障害者医療費助成制度によって全額免除されていたということを知った。この制度を利用すると、県と市町村から医療費の助成を受けることができ、重い病気をもつ人の医療費が無料、あるいは低額になる。入院時の食事代と室料、文書料などは自己負担になるが、この制度によって重い病気をもつ人、そしてその家族の経済的負担を軽減することができるのだ。母は、

「こんな制度がある国は限られている。受けることができて良かったし、本当に安心した。」

と言っていた。

ここで一つ、疑問に思ったことがある。県と市町村が負担してくれるというと、きっと税金が使われているのだろうということは中学生の私でも想像がついたが、税金の使い道はそれだけなのだろうか。私は母にそう質問した。すると母は、

「もちろんそれだけじゃない。あなたの学校の授業料も教科書も、国の税金から無償でまかなわれている。他にも、あなたが病院にかかるときに、大人よりも少ない費用で診察を受けられるのも税金の支えによるものだ。」

と教えてくれた。それを聞いて、税金は私たち小・中学生が想像しているよりもずっと身近なものなのだとということを実感した。そして、その税金をもとにして私たちが受けている様々な制度は、誰かが働いて稼いだお金の上に成り立っている。それを知って、所得税とか住民税とかそういうものは大人になってからのことで、自分が今関係があるのは消費税くらいだとしか考えていなかった自分を恥ずかしく思った。「税金はなくすべきだ」という意見もあるが、もし自分や家族が病気になったとき、あるいは自分が義務教育を受ける学生だったとき、私たちの暮らしは税金によって支えられている部分が確かにあるのだと思うことができるのではないだろうか。

税金の支えがなければ、私たちはこんなに長い間祖母とともに過ごすことはできなかっただろう。だから、自分もまた誰かを助けることのできる税金について正しく理解し、これからもより良くしていくために考え続けていきたい。